

発掘技術者研修「官衙遺跡調査課程」

専門研修「官衙遺跡調査課程」は10月28日から11月2日までの延べ11日間の日程を無事終了しました。国府から郷関係官衙遺跡に及ぶ地方官衙遺跡の発掘調査や研究上の専門的な知識や技術を習得するための研修で、山形県から熊本県までの研修生18名が参加しました。そのほとんどが当該遺跡の調査経験があったり、これから調査にあたらうとする者であり、熱心な反応がみられました。

外部・内部の各講師による講義・実習・現地見学とも大変好評で、これまで見過ごしてきた発掘調査上の留意点や視点を学び、新たな目を開かれたとする感想が多く、この研修の継続を要望する意見も少なくありませんでした。今回も、古代建築構造の講義と春日大社着到殿での実測実習とを組み合わせたカリキュラムは、上部構造との関係を考えながら建物遺構の調査にあたる必要性を体得でき、大変有意義であったとする声が目立ちました。今回は、研修生同士の経験交流や情報収集が時間不足とならないよう、研修生自身による事例報告と意見交換の時間を増やしました。この方法も毎回好評で、研修に対する意欲を高める上で、また研修生相互のネットワークづくりにも効果的であったと思われます。

最近の地方官衙遺跡調査では末端の官衙関連遺跡が大きな問題となっており、研修生からの質問や悩みもこうした遺跡に関するものが少なくありませんでした。この分野も講義では取り上げているものの、まだ明確な遺跡の性格判断などの方法は確立しておらず、こうした研修生の要望に応えられる基礎的な研究も重要な仕事であることを痛感させられました。